

## 重複障害のある 子どもたちの育ちの かたわらにいて

—学校生活の中で気づかされたこと—



東京都立立川ろう学校  
イメージキャラクター  
たっちくん

東京都立立川ろう学校 永石 晃

## 今日の話題

- ・発達を捉えるヒント  
—2つの視点から—
- ・聴覚の他にも障害を抱えることの  
大変さと子どもたちの育ち  
—事例を通して—
- ・ろう重複障害を抱える児童の  
支援において大切なことは  
—まとめ—

## 「発達の障害」

理解する難しさ

### 発達における「〇〇障害」

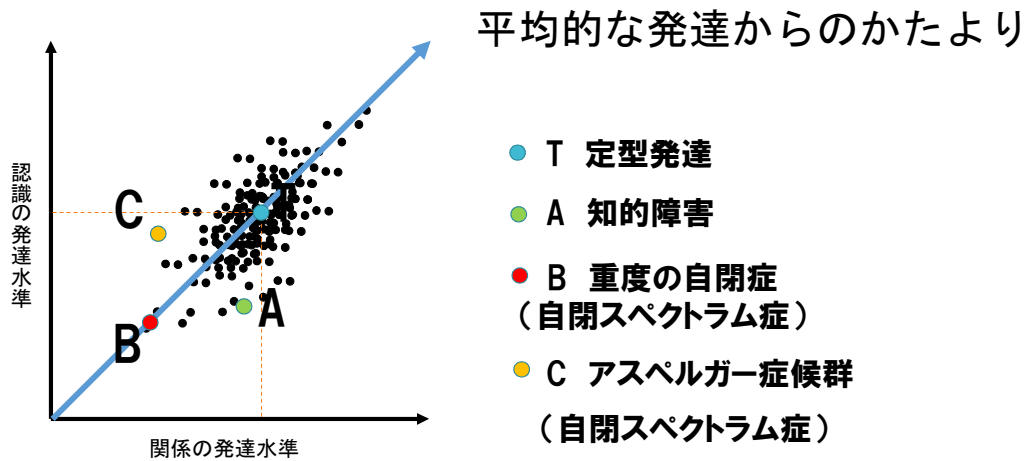
- ここでの診断とは  
いくつかの行動のあり方(症状)  
をとらえての一つの判断
- 診断≠理解  
支援の入場券みたいなもの。  
でも薬の処方箋とは違う。(例えば風邪)  
診断はなくとも理解や支援は可能だし  
必要。

## 発達を とらえる 2つの軸

- ①認識の発達  
広く世界を知る (事象の理解)
- ②関係の発達  
広く世界と関わる (人との関係)

滝川「子どものための精神医学」2017

## 発達を考えるときの2つの軸



滝川「子どものための精神医学」2017医学書院 を参考

### 発達初期における 「ことば」の はたらきについて

①気持ち(情動)を分かち合う 関係の発達  
ことばのはたらき

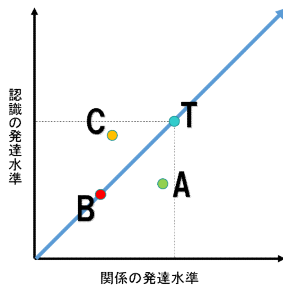
自分のことを理解してくれているという  
安心感をもとにして育つもの

②物事(事象)を正しく理解する 認識の発達  
ことばのはたらき

安心をもとにして、自分以外の世界に  
興味をもつことから育つもの

一般にことばが育つプロセスをたどると  
①→②ということも念頭に ではどのようにして育つのか

## 発達の特徴と体験世界



### ろう重複児は

- + 「聞こえない」  
情報をキャッチする困難  
いつも主体的でなければ得られない
- + 様々な生活の背景を持つ

こうした発達上の困難を抱えながら、子どもたちは、どのように世界をとらえ、そしてどのような気持ちを抱いて日々生活しているのだろうか。  
どのように育っているのだろうか・・・と想像してみる

事例 A君 小学部高学年 男子 「自尊心の傷つきやすさに触れて」

事例を通して  
学んだこと

- ① 自閉症に基づく行動という  
一面的な解釈からだけでは  
**関わりの糸口**をつかむことが難しい。
- ② **自信や自己肯定感**とは  
具体的な生活の中身が  
豊かになって実感されるのでは。
- ③ 生活のエピソードの解釈が  
**当事者の利益に根ざすものなのか**  
絶えず振り返ることが大切だろう。



事例 Bさん 小学部高学年 女子 「かみつくという行為の意味するもの」

日常の  
指導の中で  
心がけた  
こと ①

- ①自分がこうしたいという気持ちや、やりたくないという気持ちも含めて表現できる、ということ折に触れ伝えること。
- ②何かに拘るということ自体が、Bさんにとってとりあえずの大事な行為であると尊重して見守ること。  
気持ちを切りかえられた、自ら新たな事に向かえた、  
場面を評価すること。
- ③今の自分はドキドキしているのだという気持ちに気づけるように働きかけること。

事例 Bさん 小学部高学年 女子 「かみつくという行為の意味するもの」

日常の  
指導の中で  
心がけた  
こと ②

- ④活動の全体図や終わりの見通しを丁寧に示す努力をすること。  
その上で今行っていることがどう結びつくのか知らせること。  
どのくらい理解できたのかを、取り組んでいる様子からしっかり見取ろうとすること。
- ⑤新たなシチュエーションに少しずつトライできるよう働きかけること。トライしてみようと思えるセッティングに

事例 Bさん 小学部高学年 女子 「かみつくという行為の意味するもの」

事例を通して  
学んだこと

- ①子どもの行為の背景にある  
**その子なりの気持ちや意味を**  
いろいろな面から考えてみる大切さ。
- ②その子なりの**見通し**をもてることが  
生活に対する安心感をもたらし、また  
自ら取り組めたことが自信へと結びついていく。
- ③子どもの活動の様子から、その活動が  
**しっかりと自分の手の内に入っているのかを**  
とらえていくことの大切さ。

事例 C君 小学部低学年 男子 「乱暴の背景にかくれた内奥の思い」

事例を通して  
学んだこと

- ①発達障害のある児童にとっての  
**生活環境の大切さ、心癒う場があることの**  
大切さ。
- ②子どもばかりでなく その保護者に対して  
**労うこと**の大切さ。  
少しでも**生活がしやすくなる工夫を**  
共に考えることの大切さ。
- ③問題行動の内奥にある子どもなりの  
**声や必然性**に気づける教師としての力量の大切さ。

## まとめ

### ろう重複障害 の育ちの困難 を考える

#### もし支援がなかったら困難なこと

- ①子ども達が“生活の見通し”をもつための  
手がかり(情報)を十分に得ること
- ②時間の連なりの意味を理解し、意識すること
- ③さまざまなことから同士の結びつきやその  
理由を理解し、了解した生活を送ること。
- ④他者と共有できるコード(手話やことば)、  
“自己表現”をする手段を身につけること

配慮なしではこうした生活上の困難が  
当り前のように毎日続いてしまうのでは・・・  
自分だったら・・・と想像してみる。

## まとめ

### ろう重複障害の 支援で 心がけたいこと

#### 子どもにとって

- ①「人は信頼できる」という確かな実感を得られるように
- ②日々の暮らしを、  
自分の手の内にしっかりと入れられるように
- ③その子が心から憩えるひとときがあるように  
→居場所、拠り所とでも言うのでしょうか

#### 大人として

「その子らしく」と「社会で生きる」という  
バランス感覚の中で、今身につけてほしい力を考え、  
個別に支援の工夫をする